

# 「多文化交流科目」とは

## 留学生と日本人学生が ともに日本語で学ぶ 協働学習の授業です

変化の激しい現代社会を生き抜くには、基礎的・専門的な知識を身につけるだけでなく、それらを活用し応用する能力が必要です。また、グローバル化の進む現在、様々な背景や文化を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとるスキルが求められています。そのためには、異文化に対する理解や協調性・柔軟性が不可欠です。さらに、積極的に時代を切り拓くリーダーには、主体性や責任感、困難に直面した際の問題解決能力やチームワーク力なども必要です。

多文化交流科目は、日本人学生・留学生の混成クラスにより、意図的に「多様な背景を持った人々が集う環境」を創出し、受講者のみなさんに、現代社会で必要とされるスキルを育成する機会を提供するものです。

みなさんも一緒に授業を受けてみませんか？



### 留学生のみなさんからよくある質問

- Q** 留学生はだれでも多文化交流科目を受けることができますか？
- A** 日本人学生と一緒に日本語で学ぶ授業なので、一定レベル以上の日本語力が必要です。初めて受講する人は、プレースメントテストを受けてください。なお、希望者が多い場合には、希望どおりに科目を受講できないことがあります。
- Q** 多文化交流科目で日本語を勉強することはできますか？
- A** できます。ただし、多文化交流科目は日本語の勉強を直接の目的とするクラスではありません。日本人学生とともに「日本語で」学ぶ科目です。
- Q** 多文化交流科目の申請方法について教えてください。
- A** 留学生は、「日本語コース受講申し込みフォーム」からほかの日本語科目と一緒に申請してください。詳しくは、国際教育研究部HPをご覧ください。



ともに  
考える

解決に向け  
実践する

課題を  
認識する

# 多文化交流科目

留学生と日本人学生がともに日本語で学ぶ



高等教育推進機構国際教育研究部

# 多文化交流科目 開講科目一覧

## ●2019年度1学期

月4	文化としての日本マンガ	小林 由子
火2	話しことばを科学する	平田 未季
火5	田舎に行こう！ －ライフストーリーインタビュー－	式部 絢子
水5	日本語のコミュニケーションスタイル	鄭 恵先
木4	国際交流を实践する	平田 未季
木5	考え方の技術	小林 由子
金5	グローバルキャリアセミナー	式部 絢子

## ●2019年度2学期

月4	札幌をフィールドワークする	青木麻衣子
月5	文化としての日本マンガ	小林 由子
火2	世界の7000の言語と日本語	平田 未季
火3	北海道大学を発見しよう	奥本 素子 朴 炫貞 古澤 輝由
火4	感染症、拠点作りとネットワーク形成の シミュレーション演習	小華和柁志
火5	田舎に行こう！ －ライフストーリーインタビュー－	式部 絢子
水3	留学を促進する	高橋 彩
水4	「国際交流」を考える	青木麻衣子
木3	アカデミック・プレゼンテーション	山田 智久
木5	考え方の技術	小林 由子
木5	海外の学生と日本語で世界の課題を話し合おう －オンライン協働学習－	鄭 恵先 青木麻衣子
金5	グローバルキャリアセミナー	式部 絢子

## 多文化交流科目の特徴

- ▶多文化交流科目は、日本人学生と留学生がともに日本語で学ぶ問題解決型・プロジェクト型の授業です。
- ▶少人数の授業で、コミュニケーション力、異文化理解力、グループやチームで活動するスキル等の向上が図れます。
- ▶日本人学生（主として学部1・2年生）は、全学教育科目一般教育演習「多文化交流科目」を履修します。
- ▶留学生は、一般日本語「多文化交流科目」を履修します。（詳細は『日本語授業概要』をご覧ください。）

日本人学生\*  
全学教育科目 一般教育演習  
「多文化交流科目」  
※…新渡戸カレッジ生優先



留学生  
一般日本語「多文化交流科目」  
(詳細は「日本語授業概要」参照のこと)

## 多文化交流科目で育成を目指すスキル

3

解決に向け  
実行する

- ・チームワーク
- ・リーダーシップ
- ・交渉力
- ・情報活用力

- ・グループやチームでの活動で自分の役割を見つけ、積極的に行動できる。
- ・互いに配慮しつつ、グループやチームでの活動を前進させることができる。
- ・互いの意見を尊重し、協力して課題に取り組むことができる。活動のなかで互いの妥協点を見つけることができる。
- ・収集した情報・資料を適切な方法で分析し、場面・目的に応じて活用することができる。

2

ともに  
考える

- ・ファシリテーション
- ・説得力
- ・論理的思考力
- ・ディスカッション
- ・コミュニケーション力

- ・自分の意見をわかりやすく簡潔にまとめ、それをグループやチームで企画・運営につなげることができる。
- ・自分の意見を論理的に順序立てて伝え、相手を説得することができる。
- ・客観的なデータに基づき、自分の主張を論理的に組み立てることができる。
- ・グループで理解を共有し、議論することができる。
- ・相手の意見に対し、適切かつ柔軟に対応・質問することができる。

1

課題を  
認識する

- ・分析力
- ・情報収集力
- ・多様性への気づき
- ・異文化理解
- ・課題発見

- ・講義や他者の話を聞き、その内容を客観的に把握・理解することができる。
- ・適切な情報を検索・収集し、それを整理・精査することができる。
- ・異なる文化・価値観・態度を尊重することができる。
- ・自分の母語や文化について客観的に考えることができる。
- ・講義や自ら調べて得た情報を、身近な事柄に引き付けて考えることができる。また、その課題を指摘することができる。

## 授業を履修した学生の声

- 国籍・学年問わずに、他人の意見を聞き合い、尊重し、教室に小さな共生社会を築き上げることができた。
- 文化的な背景がちがう者同士、前提としている知識が異なるので、コミュニケーションをしていく中でそのギャップを埋めていくのに苦労した。
- 視野が開けて、最後には、自分もちがう視点で物事を考えることができたと気づいた。
- 大学で勉強するうえでも、社会に出た時にも、生きる経験になったと思う。
- みんなで工夫して授業の結果を出すこと以外にも、大切な縁が作れたと思う。